

環境県民局 資 料	No. 3
--------------	-------

令和4年3月3日
課名 環境県民局わたらしい生き方応援課
担当者 課長 八百野
内線 2733

コロナ禍における『専門家による相談会』等の実施結果について

1 要旨・目的

長期化するコロナ禍において、悩みを相談できず孤立を深める方など様々な困難を抱える方が取り残されることがないように実施した専門家による緊急の相談会及び市町や地域・職場で対人援助に携わる方への助言会等の結果を報告する。

2 現状・背景

コロナ禍におけるアンケート結果などから、心理的に影響を受けている方や、これまでにない閉塞感を感じる方が多いことが分かったほか、相談現場に寄せられる悩みは複合的なものが多いため、相談内容の的確な把握が重要で、相談現場での対応も多岐にわたり難しくなっている。

3 概要

(1) 対象者

- ア 一般向け 県内に居住し、様々な困難を抱える方
- イ 支援者向け 対人援助に携わる方や講演内容に興味のある方

(2) 事業内容（実施内容）

- 【実施日】 令和4年2月23日（水・祝）
- 【実施場所】 エソール広島（広島市中区大手町一丁目2-1）
- 【実施主体】 公益財団法人広島県男女共同参画財団
- 【実施内容】

ア 一般向け

○コロナ禍における暮らしの不安や夫婦・家族についての専門家による相談会

区 分	主な相談内容	相談者数
弁護士相談	・DVや離婚、ハラスメントなど	9名
臨床心理士相談	・子供の問題、夫婦の問題、精神的な不安など	7名
司法書士相談	・相続や借金、経済的な問題など	4名
産婦人科相談	・更年期のもやもや、性のことなど	4名
高齢者相談	・将来の不安、相談など	4名
LGBT相談	・性的指向・性自認の悩み、パートナーのことなど	6名
合 計		34名 (うちオンライン2名)

イ 支援者向け

○身近な人の話を聴く技術を学ぶ公開講座 …………… 受講者数 154名

「ヘルプ出しあえる環境づくりのために」講師 ^{みやたともし}宮田智基教授(帝塚山学院大学大学院)
※コロナのまん延防止措置延長に伴い、オンライン配信のみに変更

○相談支援におけるカウンセリングのスキルアップのための助言会

区 分	主な相談内容	相談者数
支援者向けの助言	・相談支援における悩みなど	4名 (全てオンライン)

(3) スケジュール

—

(4) 予算

—

(5) 実施結果

ア 一般向け

- 専門家から相談者の悩みに対する助言や提案が行われ、「気持ちが整理できた」などの声が寄せられており、相談後のアンケートでは全員が「満足」と答えた。
- すべての専門家で定員に達する相談申込みがあるとともに、複合的な相談は臨床心理士相談と弁護士相談など併用して対応した。
- 相談を受けた専門家からは、コロナ禍で一人で悩みを抱え込んでいる状況があり、一緒に考えてくれる人とつながる場が求められているという意見があった。

イ 支援者向け

- 公開講座は、相談現場や企業等で対人援助に携わる方の受講が多く、相談対応に関する質問が活発に行われた。
- 公開講座受講者や助言会参加者の評価は高く、カウンセリング技法を学び支援の道筋を見つけるなど支援者のスキルアップにつながった。

※ 参考（参加者の声）

ア 一般向け

- ・ しっかり話を聞いてもらい、心が軽くなった。
- ・ 解決方法を提案してもらい、悩みが半分以上解消した。
- ・ 自分の悩みを家族に伝えてみようと思う。
- ・ 社会が激変する中、どう生きていけばいいのか不安で仕方なかった。
- ・ なかなか話をする場がなく孤独で、どうしようもない寂しさに負けそうなとき、エソール広島を思い出そうと思う。

イ 支援者向け

- ・ 自分の仕事に活かせるよう頑張りたい。
- ・ 援助方法について、気づかなかった視点に気付くことができた。

(6) 今後の対応

- コロナ禍において生活への不安や心の悩みなど様々な困難を抱えている方々に対し、来年度においても、専門家相談会の開催など専門家と連携した相談事業を継続して実施する。
- 市町や地域・職場の対人援助に携わる方を対象に、カウンセリング技法を学ぶ支援者養成の講座を新たに開設し支援員のスキルアップを図るほか、様々な相談機関の支援者同士の関係づくりを行い、それぞれの課題等を共有することで、一層、適切な支援につなげていく。
- 寄せられる相談内容の詳細な分析を行い、困難を抱える方々の実情の一層の把握に努めるとともに、課題を支援機関や関係部局と共有し、必要な支援策の検討や実施につなげていく。